

# 新宮茶・富郷茶の挑戦 新ブランド茶を発表

## 結の霧ひめ YUI NO KIRIHIME

ちよつと一服、  
ほつと一福

新宮や富郷のような寒暖差のある山のお茶は、平地の産地と比べて、香りが高く、甘みが強いことが特徴です。

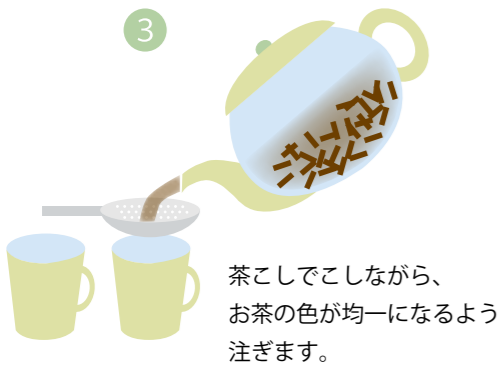
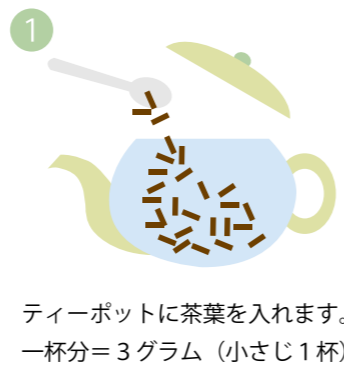
今年の茶葉は、春先の気温が低かったため、茶葉がゆっくりと育った分、旨味成分も徐々に増し、濃厚な飲み口になっています（一気に育つと淡泊な味わいとなります）。

今回発表されたほうじ茶は、従来強火で焙煎される茶葉を、ゆっくり、じっくり丁寧に深く焙煎しています。甘みを残しつつも、苦みや渋み成分のカフェインやカテキンを少なくし、香ばしい香りの立ったまろやかな飲み口となっています。

リラックス効果があるといわれているほうじ茶の香りは熱湯で短時間で抽出するのがポイントです。

茶葉にこだわり、加工にこだわった「結の霧ひめ」で、心と体をほつと和ませてみませんか。

### ほうじ茶の淹れ方



■問い合わせ先  
うま茶振興協議会事務局（農業振興課内） 28-6323



うま茶振興協議会 脇 純樹 会長  
（協製茶場 専務取締役）

夢は新宮茶を全国に広めたいですね。今年度は、県内や市内の方たちに知ってもらいたい、そして味わっていただきたいですね。ゆくゆくは新宮茶という名前が広がってほしい…、と思っています。

そのため、今回の商品の販路は、うま茶振興協議会を構成している協製茶場や大西茶園の従来の販路やインターネット販売のほか、JAうまの産直市、また観光施設である霧の森などで販売する予定です。

今は日本茶の消費量も減少傾向にある中で、若い世

### 「全ては茶産地の存続のため」

代を中心にしてリーフ（茶葉）やティーバッグを見せて、高級感や非日常性をインスタグラムなどで演出・紹介するなど、お茶文化がペトポトル全盛期から本来の嗜好品としての文化に見直されつつあります。

山間部における茶の生産農家の後継者不足は深刻なものがあありますが、協議会の目指すところは茶産地の存続です。

このブランド茶で認知度が向上し、これを契機に「産地の強化」、「生産農家の後継者確保」につなげたいと考えています。



結の霧ひめ(ほうじ茶ティーバッグ)  
// (ほうじ茶葉)  
販売価格 1,080円(税込)



令和3年2月に茶産業・茶産地を守るために発足した「うま茶振興協議会」が新ブランド茶の「結の霧ひめ」を発表。

商品は、口当たりの良さと飲みやすさから若い世代に人気のあるほうじ茶です。

品質を安定させるために新宮・富郷の茶葉をブレンドし、他の産地よりも芳醇な香りの高さや甘みの余韻の強さを持つ山茶の良さを活かしつつ、ほうじ茶の持つ香りの良い優しい味わいを追求した逸品です。